

LiSA サポーターズ外部研修等参加報告書

- 1 研修等名 「令和5年度相模原地区交通安全高校生・PTA大会」
- 2 会場 杜のホール橋本
- 3 参加者 会長、交通安全委員2名、担当教員、被表彰者
- 4 日時 令和5年11月17日(金)14:00~16:30

内容

主催者挨拶

相模原地区交通安全教育実行委員会 委員長(相模原弥栄高等学校長)
県高等学校PTA連合会相模原地区協議会 会長

来賓挨拶

(財)神奈川県立高等学校安全振興会 事務局長

来賓紹介

神奈川県教育委員会指導部保健体育科 専門委員
神奈川県立高等学校PTA連合会 監事・理事
神奈川県警察相模原警察署、相模原南警察署、相模原北警察署、津久井警察署
各警察署交通安全課長
相模原市南区、中央区、緑区 各区地域振興課長

生徒研究発表

1. 相模原弥栄高等学校

「正しい自転車のルールと私たちの認識の違い」

当校では通学時に自転車を利用する生徒が殆どで83%が自転車通学をしています。

ヘルメット着用が努力義務化されました。あくまで義務ではなく努力義務であるため被らなくてもいいや的な認識があります。調べて見ると、統計では自転車死傷事故のうちヘルメット着用での死傷率が0.21ポイントに対し未着用では0.58ポイントとおよそ2.1倍にもなることが分かりました。また、自転車走行時は道路のどこを走りますかと調査すると車道が63%、歩道が34%という結果でした。道路交通法では自転車は車両と見なされるので正しくは車道を通行しなければなりません。但し、歩道に自転車歩行者の標識がある場合と車道が工事などで通行が出来ない場合は通行出来ます。さらに、一時停止について調べて見ると殆どの方は目視で安全を確認しているから、いちいち止めることはしないということが分かりました。一時停止は、車両を止めて安全を確かめることの他に、左右の方向にいる歩行者等に対し車両の存在を気付かせる意味があります。

また、交差点を右折するときは、まず直進で交差点を渡り、次に進みたい方向に向きを変えて正面の信号が青に変わるのを待って横断する二段階右折をする必要がありますが、車がない時等斜め横断したりしてしまいます。

幼い頃から慣れ親しんだ自転車ですが、交通安全を維持すること、交通ルールを正しく理解し、守ることが事故防止のために必要であることを再認識することが出来ました。

2. 津久井高等学校

「交通安全意識を高める取り組みについて」

本校は県立高等学校の中で唯一バイクでの通学が認められる学校です。生徒全体の20%が自転車、バイクで通学しており、26名がバイク通学をしています。理由としては橋本駅から津久井高校前までのバス運賃が片道650円、1ヵ月通学定期で18,840円であり、鉄道

の運賃が加算されるとかなり費用が掛かるための措置でもあります。

但し、バイク通学を認める条件として緑区以外からの通学で指定された中学校の学区内であること、学校で警察が行う講習、実技講習、車両点検を受講し認められた者となっています。一方自転車に目を向けると、ヘルメットの着用については自転車通学者 70 名のうち着用している 36 名、所持のみ 20 名、未着用 14 名という結果でした。

また、学校ではスクエアード・ストレイト方式による模擬交通事故を見て、その危険性と不注意に繋がる行動とは何かを感じてもらい、さらには車の後部座席に乗って自動車からの目線と人と車が接触した時の恐怖感を体感します。

この取り組みにより、自転車運転時のヘルメット着用への意識、交通ルールを順守することの意味、安全運転することは自らの命を守ることに繋がるということを学びます。

3. 麻溝台高等学校

「ヘルメット着用の努力義務の現状」

麻高は殆どの生徒が自転車通学者をしています。ここで質問です。「自転車に乗るとき最も大切なものは何でしょう？」私たちの答えは「命」です。自転車の交通事故率について調べて見ました。自転車事故件数は減少傾向にあるものの交通事故件数に占める自転車事故の割合が高いことが分かりました。

また、自転車事故原因の一つであるスマホを見てしまう「ながら運転」は特に高校生の占める割合が多いとされています。今年からヘルメットの着用が努力義務化されました。

ヘルメットの着用は自転車事故における死傷者に影響がある、つまりは頭部を守ってくれることで致命的な損傷を防ぐのに有効であることが分かって来ました。

但し、本校では未着用率が 100% という実態があるので調査すると、見た目が悪い、ダサイ、周りの皆が被らないから、など周囲の目を気にすることが先決で、着用意識の低さがあることが分かりました。麻高生の場合ヘルメット着用は努力義務ではなく義務になった方が良いのかもしれませんが。この発表を通じて周りの目より自分達の安全ということを考える良いきっかけになったと思います。



感想

- ・自分の身の安全より他者からの視線を気にする人が多かった。
- ・義務化しない限りヘルメット着用率は高くないように感じた。
- ・このスライドを通して自転車利用時の安全についてさらに考える良い機会を得ることができてよかった。

PTA 活動発表

1. 相模原弥栄高等学校 PTA

本校は弥栄東高等学校と弥栄西高等学校の 2 校併設校として開校し昨年 40 周年を迎えました。スポーツ科学科、美術科、普通科、音楽科を有し、その専門性と特色から県全域より生徒が通学しており、最寄り駅からの距離もあるため殆どの生徒が自転車を利用しています。(生徒数 1041 名のうち 860 名が自転車を利用。)

PTA の交通安全活動に携わる委員会は交通安全推進委員会で 19 名が活動しています。主な活動として、交通安全指導、自転車点検、自転車リサイクルの 3 点があります。

- (1) 交通安全指導 5月と10月に委員会メンバーが中心となって登校時の自転車運転状況の把握と注意喚起を行っています。

今年度の状況は、イヤホンを付けての運転24名、並列走行1組、携帯使用5名、交差点斜め横断1名、ヘルメット着用10名という結果でした。

- (2) 自転車点検 6月と1月に実施します。

調査対象844台の中で指摘が上がったものとして、タイヤ空気18台、無施錠156台、ブレーキ8台、ベル53台、ライト21台、学校許可シール100台、放置11台が確認された。無施錠については校内駐輪場調査であったためであると思われる。

- (3) 自転車リサイクル 卒業する生徒が不要となった自転車を整備して新入生等に利用してもらい取組みで、昨年度末に譲渡された24台が再整備されリサイクル品として活用されている。新入生からリサイクル品購入申し込みは35件あった。

- (4) その他事項として

スクエアード・ストレイト方式の交通安全啓発事業を実施後生徒達にアンケートを実施しており、感じたこと自分達が注意したいこと等を調査し、交通安全指導に役立てる様に取り組んでいます。

7月の道交法改正で電動キックボードが特定小型原動機付自転車となり免許なしで利用可能となった。16歳未満は使用不可、時速20km以上速度が出ない事、大きさの規制、ウインカー、ブレーキランプ、最高速度表示灯がついて時速6km以下になること。(歩道走行が出来る条件)、ナンバープレート、保険加入義務などがあり、6km以上では歩道は走れないこと、車両扱いになるので車道を走行すること、ヘルメット着用は努力義務です。自転車よりややこしくリスクな乗り物になります。

今のところ電動キックボードで通学を希望する生徒はいませんが将来どうなるかは不透明なので検討していく必要があると思われます。

- (5) 相模原地区協議会交通安全担当副会長校としての役割

本日の交通安全大会運営の他、地区交通安全連絡会を3回/年を本校で実施し、相模原地区協議会加盟13校との情報交換を実施しています。特に今年はヘルメットの着用に関する話題が中心となり、例として相模田名高等学校女子バスケットボール部のココロコメントの活動や免許なしで利用できることになった電動キックボード等が話題となりました。

以上の発表がされました。

講 評

相模原北警察署交通安全課長、神奈川県教育委員会指導部保健体育科専門員の御二方より、各校の生徒およびPTAの交通安全に対する取り組みについて高い評価を頂きました。

表 彰

交通安全をテーマにポスターおよび標語川柳を募集し、選考された作品を表彰するもの。

高校生ポスター部門

最優秀賞	相模原弥栄高等学校	2年生
優秀賞	上溝高等学校	2年生
	神奈川総合産業高等学校	3年生
	相模原高等学校	2年生



最優秀賞 相模原弥栄高校生徒の作品



本校の生徒が優秀賞を受賞されました。

高校生標語川柳部門

最優秀賞 上溝南高等学校 1年生 『曲がり角 恋を求めず 停止せよ』

優秀賞 神奈川総合産業高等学校 3年生 『同じと 思うな いつもの道』

本校の他、以下の6名作品が受賞されました。

『怖いのか? スマホを見れないのが?』『一瞬の油断、失う一生。』

『急がなきゃ 焦る気持ちに ブレーキを』『やめようよ スマホとよそ見の 二刀流』

『推しでもいいねは押すな 走行中』『君に問う、命かスピード 落とすなら?』

PTA 標語川柳部門

最優秀賞 神奈川総合産業高等学校 保護者

『やらかした 少しスマホを 見ただけで』

優秀賞 橋本高等学校 保護者 『スマホなし イヤホンなしで 事故もなし』

上溝高等学校 保護者 『待ってるよ いつもの笑顔で 「ただいま」を』

以上の作品が受賞されました。

大会宣言

生徒を代表して津久井高等学校の2名から大会宣言が発表されました。

今回の交通安全高校生・PTA 大会を通じて私たちは、高校生の自転車事故について、またこれらを取り巻く交通環境について知ることができました。

また、「スタートかながわ」という神奈川県交通安全教育推進運動についても知ることができました。

交通安全の啓発のために何より大切なのは、一人ひとりが交通安全に対する意識を高め、家族・友人に交通事故による悲しい思いをさせないように努めることです。

私たちの行動が、交通社会の規範となるよう、交通ルールを遵守し、思いやりの気持ちを大切に、交通安全に努めることをここに宣言します。

閉会のことば

相模原弥栄高等学校 PTA 会長より、本日の大会が高校生と PTA が交通安全をテーマとして同時に活動発表する唯一の場であり、大変有意義な大会であったと閉会が宣言されました。

❀ 各校とも特色を生かした交通安全活動の取り組みをされていると思います。交通ルールの遵守、交通災害0を目指す。この当たり前を維持させることは、地道な活動の積み重ねによる賜物ではないでしょうか、皆さんは如何ですか。 以上会長でした。